

海上自衛隊鹿屋航空基地視察メモ

1. 基本情報

○滑走路

2,250mと1,200mの2本。だが、1,200m滑走路は耐久性がなくP-3Cを飛ばせない。へりのみ使用している。

○面積

396ha（普天間481ha、佐賀空港415ha）
周辺に市役所、学校、病院などの公共施設がある。

○部隊編成（主な任務）、配備機種（別紙参照）

隊員数は約1,700人。

* 第一航空群

周辺海域による警戒監視、防衛警備、災害派遣。

P-3Cが約20機。

* 第211教育航空隊

教育訓練

操縦士：年間約40名、約9ヶ月訓練　　航空士：年間約20名、約6ヶ月訓練

練習機OH-6D（初歩訓練）、哨戒機SH-60J（一定の訓練後＝仮免状態）

※ともに機数未確認。

* 鹿屋航空分遣隊

救難（救急輸送）、災害派遣。

○その他

* 演習場はない。

へりや固定翼機運用、飛行訓練、機種整備を任務とする純粋な航空基地。（飛行訓練のシュミレーター棟を複数確認）

* 降灰があるが運用上の問題はない

今年は例年以上に降灰がすごいため、15年ぶりに航空機の整備レベルを上げた。だが、降灰が原因で飛ばせない、ということはない。

2. Q & A (主な回答者：池基地司令、村上施設課長)

鹿屋基地と周辺住民の関係について

Q：鹿屋基地と住民との間で良好な関係は築けているのか。(基地に関する住民感情)

A：(略)

Q：基地周辺には市役所や病院、学校など公共施設が点在しているようだ。運用面での安全性は確保されているのか。また、住民との間に騒音問題等のトラブルはあるのか。(訴訟発展の可能性など)

A：鹿屋基地、鹿屋市、地元自治会三者で「(基地) 連絡協議会」を設置しており、年1回ほどのペースで意見交換している。

正直なところ、騒音問題はある。市と九州防衛局が連携して住民対策に取り組んでいる。当基地としては、エプロンをなるべく基地の中心部に持ってくるような努力をしている。ただ、W値が70デシベル以下なので防音工事の対象になっていない。従って、爆音訴訟の提訴もその予定もない。

鹿屋基地の戦略的位置付け、運用状況について

Q：鹿屋基地の戦略的な位置付け、地理的重要性について。

A：(略)

Q：P-3C 固定翼哨戒機および救難ヘリ等の運用状況について。

A：通常1日1回、1～2機程度のP-3Cを飛ばして、東シナ海の警戒監視を行っている。災害や漁船の難破等、何かあればすぐに飛ばせるよう24時間体制で待機はさせている。

Q:例えば、海上自衛隊の大村基地や佐世保基地など、他の九州の自衛隊基地や米軍基地と鹿屋基地の間に戦略上の関連性はあるのか。相互の部隊運用等はなされているのか。

A:特に行っていない。広義でいえば日米共同訓練という形になるのだろう。

Q:佐世保基地、大村基地、日出生台演習場、佐賀空港、種子島(馬毛島)までの距離およびヘリ運航時の所要時間。

A:佐世保(約240km、約70分)、大村基地(約210km、約1時間)、日出生台(約240km、約1時間)、佐賀空港(約220km、約65分)、馬毛島(約70km、20分)

米軍再編「ロードマップ」、「基地問題検討委」関連

Q：「ロードマップ」によると、普天間飛行場のKC130 空中給油機は、岩国基地を拠点とし、訓練および運用のため鹿屋航空基地とグアムに定期的にローテーション展開される。KC130の訓練配備について、周辺住民の受け止め方はいかなるものか。

A:基地に対する苦情はない。06年5月の日米合意時に「連絡協」として鹿屋市から国に質問状を送付したが、未だに回答はない。

Q:「ロードマップ」には、「KC130 支援のため、鹿屋基地において必要な施設が整備される」と明記してある。具体的にどのような施設が整備されるのか。整備の進捗状況と併せて伺いたい。

A: 米軍運用の所要条件がわからないので、整備しようにもできない。何一つ手つかずの状態であり、1 円の予算ついていない。いずれにせよ、空中給油機が来るのであれば、格納庫建設、燃料庫地区の整備（貯油施設増設）は必要だと考えている。

Q:仮に、KC130 と一緒に普天間のヘリ部隊が鹿屋基地に移駐した場合、運用可能か。障害があるとすれば、どのような点が挙げられるか。

A: ★政治が決めること。

運用に限って言えば、年間 4 万回超の発着回数（海自航空基地で全国最多）である。ヘリと固定翼機のスピード、飛行経路は全く異なるので、P3-C の離発着時にはヘリを飛ばさないような管制をしている、外来の P-3C もあり、今の運用状態でも厳しいというのが本音。

Q:一部マスコミは、「基地問題検討委」に参加している社民党委員が鹿屋航空基地を移設先として提起する、と報道している。どのように受け止めているか。

A:（隣席者一様に）驚いている。

3. テルヤ議員の所感

○ 視察してみても印象、認識

現在の滑走路の長さがあれば、鹿屋に普天間のヘリ部隊は移せる。

○ クリアゾーン確保について（別紙参照）

周辺に民間地域（役所、学校、病院）が確認できた。クリアゾーン確保は必要。その場合、滑走路の延長・拡張の検討が必要かもしれない。

○ ヘリ部隊移駐実現のための課題

普天間のヘリ部隊を丸ごと移すとなったら、教育部隊の訓練ヘリを他の自衛隊基地に移す必要があるだろう。同じ文脈で救難ヘリの扱いをどうするかも検討の余地あり。